

ふるさと宅配便

今年もお世話になった方へ、長門市俵山にちなんで贈り物はいかがですか？
今回は5000円のセットを2つ、3500円のセットをご用意させていただきました。
どちらも昨年同様、送料・送料込みの御贈りです。またNPO法人ゆうゆうグリーン俵山
(俵山ステーション)の窓口にて、受け取りたい方は500円の送料をさせていただきます
です。1月4日(日)は12月7日(日) 商品発送・窓口受付は12月13日(日)になります
※(発送につきましては送料・送料込み・送料額につきましては別途200円いただきます)

2. ふるさと宅配便

**【図】ふるさと宅配便
のチラシ（抜粋）**

○取組の経緯

- 地域内の特産品（米・野菜・自然薯など）を地域内外の人に知ってもらう取組として県の農林事務所からやってみないかと提案があり、実施することになった。

○実施状況

- 平成 22 年から開始。年 1 回ほど年末に実施。主に地域の人から地域外の人への贈答用として利用されている。3,500 円と 5,000 円の詰め合わせセット（送料込み）を用意しており、毎年 100 件程度の申込みがある。

○取り組んでみて苦労したこと

- 取組の周知方法
⇒地区広報誌の中に記事として掲載（配布は自治会経由なので通信費を削減）。併せてダイレクトメールの送付や、ホームページ、フェイスブックで情報発信。
- 特産品の確保
⇒里山ステーション俵山に出入りのある人をお願いした。顔見知りということもあり、安く特産品を提供してもらえた。

○取り組んでみて良かったこと

- 地域外に俵山の会員になりたいという人や俵山の農産品、加工品のファンが増えた。

2. 利益のゆくえ

事業名	収支
①福祉事業	+
②住民活動支援事業	+
③地産地消事業	+
④グリーンツーリズム事業	-
⑤環境保全事業	-
⑥地域資源活用事業	-
⑧まちづくり事業	-
⑦過疎地有償運送事業	±ゼロ
⑨公共施設管理事業	±ゼロ

複数の事業を組み合わせることで…

【利益の出ている事業】
↓（資金の繰入れ）
【利益が出ていない事業】

の流れができており、各事業の継続が可能。

○スタッフ（全て地域住民）

全事業含めて約30名⇒**地域住民の活躍の場を創出！！**

3. 取組のまとめ

☞地域の事業をまとめることができている。

- ・多くの地域では、事業ごとに団体が存在し、収益は各団体のものとなってしまいうため、資金を他の事業へ融通することが難しいが、俵山では地域の事業を1つにまとめることで資金確保ができている。

☞複数事業を組み合わせることで事業の継続が可能になっている。

- ・複数の事業を実施することで、『利益のある事業』から『必要であるが利益が出ない事業』（環境保全事業や地域資源活用事業など）へ資金を充てることが可能となり、事業を継続することができている。

☞地域住民の活躍の場となっている。

- ・全事業で約 30 人を雇用し（スタッフは月平均 5 万円程度の収入）、地域住民の活躍の場を創出している。

○地域資源を活用した資金調達の方法

青海島共和国

(長門市青海島地区)

人口	709人
世帯数	283世帯
高齢化率	44.7%
集落数	3

H27.2.1 現在

青海島共和国は、平成18年に閉校となった青海島小学校を地域づくりや交流の活動拠点として活用することを目的に、平成19年に3集落の自治会が中心となって設立され、様々な活動に取り組んでいます。ここでは活動を継続的に実施していくための自己資金について、地域にある資源を活用した資金調達の取組を進めています。

1. 取組事業

1. 体験型教育旅行の受入れ（年間1~2回程度。1回あたり100人前後の受入れ）

○取組の経緯

- 青海島共和国を設立した当初、自己資金をどう確保するか長門市に相談したところ、都市部の高校生等に、魚釣りや魚のさばき方、シーカヤックなど「海」という地域資源を活用した体験をしてもらってはどうかというアドバイスを受け、「体験型教育旅行」の受入れに取り組むことになった。

○実施状況

- 収入は昼食付の体験料（青海島では1人3,600円）。支出は活動の保険代、昼食代、体験活動で利用した施設使用料、地域のボランティアへの謝礼など。

○取り組んでみて苦労したこと

- 屋外での体験活動は天候に左右される。

○取り組んでみて良かったこと

- 子供たちとの触れ合いは地域の人に喜んでもらえる。
- 受入れが年1~2回程度なので、地元の負担感はなく、好意的に捉えてもらっている。
- 体験メニューの魚釣りや魚のさばき方を通年の体験ツアーとして実施。体験型教育旅行以外の一般向けツアーによる収入も得ることができている。

【写真】魚さばき体験の様子



2. 加工品開発（いかの塩辛）

○取組の経緯

- ある会員の父親が鮮魚の商売をしており、地域でよく採れていたイカを使った塩辛を自家消費用として作っていた。これを共和国の代表が食べてみたところ、とても美味しかったため、製造方法を教えてもらい販売することを思いついた。

○実施状況

- 共和国や土産物屋での販売、インターネットでの販売による収入がある。

○取り組んでみて苦労したこと

- 加工所が必要
⇒ 保健所の指導を受けながら、長門市の支援を得て、給食室だった部屋を加工所に改修することで対応した。
- 販売場所の確保
⇒ 個人の人脈を頼りに市内のお土産屋に交渉し、6店舗で販売中。現在ではインターネットでの取扱いも実施している。
- 商品の保冷庫が必要
⇒ 閉校の小学校にあった冷蔵庫を長門市から無償で譲り受けることで対応した。

3. 加工品開発（夏みかんゼリー）

○取組の経緯

- 青海島内に「夏みかん」の発祥と言われる原樹があり、地区内にも多くの夏みかんの木があるが、活用されず実が捨てられていたことに着目し、ゼリーの製造を目指した。

○実施状況

- 共和国や土産物屋での販売、インターネットでの販売による収入がある。

○取り組んでみて苦労したこと

- 加工所及び菓子製造業の許可が必要
⇒加工には3つの部屋（更衣・製造・包装）が必要。保健所の指導や長門市の支援を受けながら加工所の要件を満たすように宿直室などを改修して対応した。
- 包装に必要な機械が高額で購入できない
⇒家庭用の電気機器を代用することで対応した。
- ゼリー製造の経験がない
⇒100回以上の失敗を繰り返し、製品化にこぎつけた。

4. 加工品製造（杵つき餅の販売）

○取組の経緯

- 地区内の耕作放棄地の活用を検討する中で、餅米の栽培を始めた。餅米を売るだけでは儲からないことから、餅の加工・販売を始めた。

○実施状況

- 正月餅の販売やイベント時の販売による収入がある。年々売上が増加しており、青海島地区以外での販売も増えている。

○取り組んでみて苦労したこと

- 人員の確保
⇒自治会を經由して地域へ声掛け。午前可・午後可という形で出られる時間を聞き、希望に沿うようシフトを作成することで、無理のないようにしている。
- 作りすぎの発生
⇒当初、注文数に対して餅米をどれくらい使ったらよいか分からず、約千個作りすぎたことも。現在は少量で生産量のテストを実施し、計算をきちんと行うことで余剰が出ないようにしている。

2. 利益のゆくえ

【利益】

体験型教育旅行
体験ツアー
加工品（塩辛）
加工品（ゼリー）
加工品（餅）
共和国施設使用料
行政からの助成金
その他の収入

それぞれの利益を集約

【利益を使って実施している事業】

- 事務局運営経費
 - ・電話代
 - ・紙代・インク代
 - ・燃料代・消耗品など
- 地域広報誌の作成費
- イベントへの助成金
- 新商品開発
- 施設の修繕費 など

【成果】

青海島地区の地域づくりや交流活動の拠点として維持していくための資金が確保され、継続的な活動が実施できている。



【上図】作成されている地域広報誌

3. 取組のまとめ

☞地域資源を活かした自主財源の確保ができています。

- ・海を活用した体験活動や利用されていなかった資源を活用し、加工品を作るなど、もともと地域にあったものを上手に活用して資金を確保している。

○農産物を利用した資金調達の方法

秋芳八代ぬくもりの里

(美祢市秋芳八代地区)

人口	265人
世帯数	112世帯
高齢化率	51.7%
集落数	3

H27.1.31 現在

秋芳八代地区では、閉校となった小学校を地域活動拠点として活用できないか検討を進め、平成19年に地区内有志の地域おこし団体である秋芳八代振興会が中心となり、地域づくりに賛同する団体と共に秋芳八代ぬくもりの里を設立しました。平成20年に当時の秋芳町が旧校舎を改修して『秋芳八代ぬくもりの里交流センター』を開設し、秋芳八代ぬくもりの里が施設の指定管理を受託して、管理運営を行っています。

秋芳八代ぬくもりの里では、施設の指定管理料だけでなく自らの活動資金を確保するため、農産物を活用した体験メニューや加工品販売などの取組を進めています。

1. 取組事業

1. そば打ち体験の実施

○取組の経緯

- 昔からそばの栽培が盛んな地域であったが、生産されたそばは、地区外に出荷され、地区内では活用されていなかった。そこで、地区内で生産されたそばを地域づくりに活用したいとの思いから、そば打ちの体験メニューをスタートした。

○実施状況

- 平成22年から取組を開始。広報活動は特段行っていないが、事前申込制で年間12～13件程度の体験申込みがあり、1回あたりの参加者は15人前後。年間200人以上が地区外から訪れている。

○取り組んでみて苦労したこと

- 人手の確保
⇒1回あたり3～4人の手伝いが必要となることから、毎月1回行う定例会の際に翌月の予約状況を各団体に伝え、人手の確保をお願いしている。また、負担が増えないように一月の予約を受けすぎないようにしている。当初は無償で手伝いのお願いをしていたが、出てくる人が限定されてしまうことから、新たな担い手の確保のため、謝礼を支払うようにしている。
- 機材の確保
⇒そばの製粉に使用する機械等が必要だったが、高額のため美祢市に相談したところ、ちょうど活用できる補助金がありそれを利用した。また、冷蔵庫やそば打ちに使えるようなテーブルなど、小学校にあった物品で利用できそうなものを使わせてもらうことで購入せずにすんだ。

○取り組んでみて良かったこと

- 都市住民との交流により、八代地区を知ってもらうことができ、地区で開催するイベントには遠方から参加してくれる人も出てきた。



【写真】そば打ち体験の様子

※このほか、美祢市で行われるイベント（秋吉台カルストウォークなど）において、そばまんじゅうやそばクッキーなどのそば加工品や餅の販売を実施。地区外へのPRと自己資金の確保に取り組んでいる。

2. 餅の製造・販売

○取組の経緯

- 正月の餅を作ってもらえないだろうかとの話が地域の人からあり、事業を始めた。

○実施状況

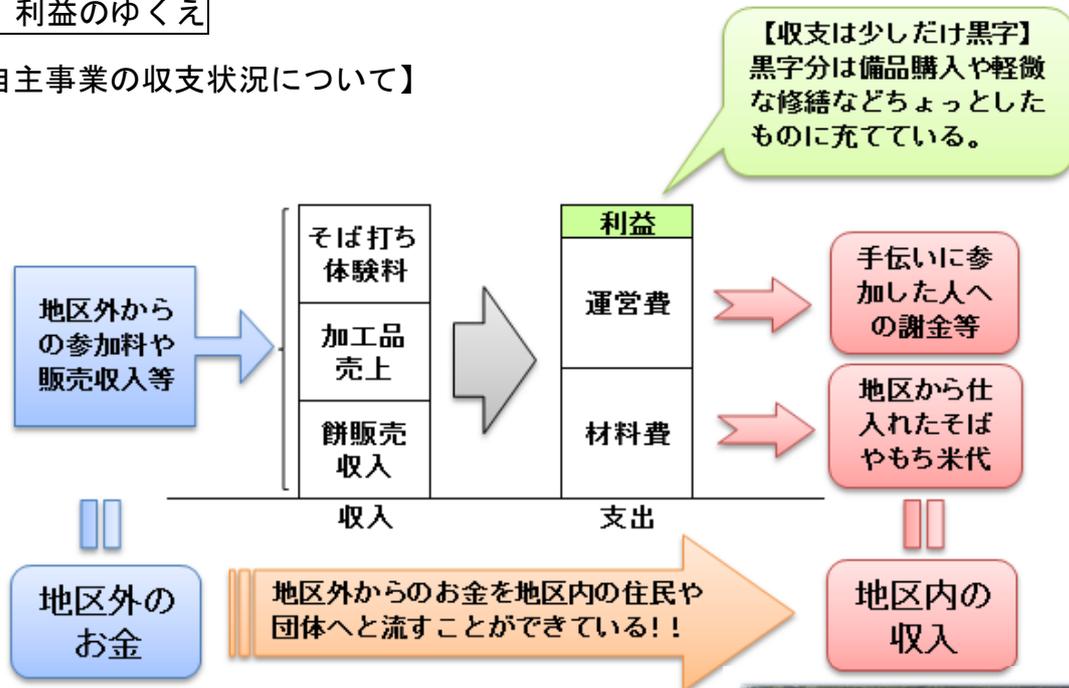
- 正月やお祭り時を中心に年間30件程度（総量6~7俵）の申込みがあり、そば打ち体験と同様に定例会時に翌月の受注状況を各団体に伝え、人手の確保を行っている。

○取り組んでみて苦労したこと

- 材料（餅米）の確保
⇒ 地区内で餅米を作っている人へお願いし、供給してもらうことで対応した。
- 加工所が必要
⇒ 保健所の指導や美祢市の支援を受けながら、給食室だった部屋を加工所へ改修することで対応した。
- 担い手の確保
⇒ 農協の加工所に以前勤めていた人が地区内に数名おり、その人達に最初のメンバーになってもらえないかお願いした。

2. 利益のゆくえ

【自主事業の収支状況について】



【写真】秋芳八代めくもりの里交流センター



3. 取組のまとめ

☞ 地域資源を活かした自主財源の確保ができています。

- ・ 昔から地域で栽培されていた地域資源（そば）を活用した体験活動や、加工品にしてイベントで販売することなどにより、もともと地域にあったものを上手に活用して資金を得ている。

☞ 外から入ったお金を地区内にお金を回すことができている。

- ・ 団体としての収益は少額となっているが、体験料収入などの地区外から得られた収入を地域住民への謝礼や材料費として支払うことで地区内の収入を生み出すことができている。

○中山間地域等直接支払制度を活用した資金調達の方法

大潮の里をまもる会

(周南市鹿野大潮地区)

人口	148人
世帯数	87世帯
高齢化率	68.2%
集落数	7

H27.1.31 現在

大潮地区では、潮路会（元青年団）や平成14年に建設された地域交流の拠点である「大潮田舎の店」の管理運営を行う住民組織「大潮地区活性化推進協議会」が中心となり、地域づくりに取り組んでいましたが、一部住民の取組となっていたことから、地区全住民が共有できる地域づくりの目標として「大潮地域ビジョン」を作成し、このビジョンの実行団体として、平成22年に地区全戸が加入した大潮の里をまもる会が設立されました。ここでは平成23年に設立した「農事組合法人ファーム大潮」と連携し、中山間地域等直接支払制度（以下「中山間直支」）の交付金を活用して地区内の環境美化や都市住民との交流などを行っています。

1. 取組事業

1. 中山間直支の交付金を活用した活動

○取組の経緯

- ▶ 大潮地区ではもともと集落ごとに中山間直支の取組を行っていたが、大潮の里をまもる会の設立と同時期に中山間直支の見直しの時期を迎え、高齢化等により取組の維持が難しく、やめたいと考えていた集落があったことから、農事組合法人ファーム大潮と連携し、地区を1つにまとめて中山間直支の取組を行うこととし、「大潮地域ビジョン」で定められた活動を中心に取り組むこととなった。

○実施状況

- ▶ 環境美化活動や、地域紹介の看板設置、都市住民との交流事業などを実施。中山間直支の交付金のうち約10%（約60万円）をまもる会の活動費として充てている。

大潮の里をまもる会活動事業（抜粋）

	事業名	概要
都市住民他出者との交流	ほたる祭り (6月)	地域に生息するホタルを見に、周南市内や山口市から毎年約500人が訪れる。リピーターも多い。
	大潮夏の体験学習 (7月)	都市部に住んでいる子供たちと保護者を対象。毎年約50人（うち子供が約30人）が参加。豆腐や柏餅づくりや水鉄砲づくりなど川遊びを一日体験する。
	彼岸花祭り (9月)	地域の見どころとして彼岸花の植栽を行う際に地区外の人に手伝ってもらったことがきっかけ。毎年約60名が参加。彼岸花の鑑賞や餅つきや栗拾いを実施。
	地域広報誌やイベント案内の送付	地区出身者や大潮ファンクラブ（地区外住民で大潮の活動を応援してくれる人約50名）へ情報発信。
地域内の活動	案内看板の設置及び修繕（1～3月）	地区の名所などを紹介する看板の作成・設置と設置後痛んだ看板の修理を住民で実施。
	景観植物の整備 (3月)	地区住民と地区外の応援者や出身者に呼びかけて、景観植物（芝桜）の植え付けや整備を実施。
	見守りを兼ねた配食弁当の実施（通年）	75歳以上を対象にした無料弁当の配食（年1回） 全住民を対象にした有料弁当の配食（偶数月に1回）